福六五十

梅室両吟家集 下

豆人の中ニ乃山家かつらん李　梅室

寸馬のころるその翁门　年風

千石落を帯て一羽銅こめて　、

餅木なからみむしる柚の花　室

月雨にて雲に完あく梅の空　、

鉛滝一かゝる秋の混鏡　風

飯桶の蓋作りて
くらい一回ハ武士なる
家ゆゑ家にあるかある家の
侍ハ家にて人くみも
かゝるまゝ雷除に
疫除おまもる秋のゝ
四方の除の十方も日の
祝ひ家にあるる

風
宝
、
風
、
宝
、
風

かゝる家に筆ゝ
家のやうにも 板やゝ
弱ゝ家 祝ひ
侍恐ゝ三つ
三人のふう 海ゝ一
ものゝあやゝ
日飯のゝ
飯桶ゝ

室
、
風
、
宝
、
風

まこと迄又所ら家のうゑかくし　風
源とかけすてゝ　宗
用もなきこゝろ一伝ふるう言遣き
作とあてまものしいそめ紀のな　風
みちけのふるかられ寒仲写
ふりと言ていたる一郎　室
十千の和菜とうめ言の自
庶ら数れて空尼み　風

作てみるふるも狐ちめ修稽
作ちんて作て歌下さる　室
君も仰す武士の少の後き
文を繋て言ふ有る形　風
深やてめたるとのも
桜やて寒ふ物ふ　宗

○

えるい新て言乃ちれる　梅宗

猿もさらぬ底荷の溜り水　立升
吹ちる花に空も飛こえて　室
系ははれやら鶏をかへり　、
群比燕の笛を吹て月を待　宮
そのいなさいもうや新く　升
兜灯を申さんとてつくまり　宮
郭とく来るを四手庫波　升
妹人まうちの数まてへきとやり　宮

二階みそよくむし干の帯　升
作名をくちれつうきれひれ　宮
自剃を笑ふ相談の詰合　升
左の手に隣戸の人の煙草具足　宮
常としては川の遠跡　升
不断の夷をも出湖る野の寺　室
名残の月を嵯峨様に旅　升
月に見えゐ跡ちよりをむかへの窓　宮

まこもかも溜る雨そゝけ　舟
本陣に酒戸口四も打綱まゝ　、
なつかれお行花の庭にて　宮
夕和も鳴も加々る様木笠　舟
見えし村は深山在の郷　宮
猫つゞて草を継やしに見本積　舟
若狗か客ゝ友人もとに訪　宮
此子中へ見世の承りにけ宮也　舟

橋出しよの多い蔵は　宮
は袖下いふくなけの川まで　舟
桜かゝるさへ下りつけなる月　宮
自負てしるを秀も嫁せ御座見　舟
顔見えさけし飲を鍋もる　宮
やら入とら漸出れとあむれて　、
流いひるまちきれて　雪　舟
袖まつて主可継ぎまも相尋し　、

[illegible]れる[illegible]
[illegible]へ 枝[illegible]中 、 宗
はやしの[illegible]
○
[illegible]めぐりまの[illegible]雪あれ 梅室
もとのこちらの[illegible] 新雪
もちをくおもさまの[illegible]
角[illegible]ものはよ[illegible]
[illegible] 、 宗

[illegible]の[illegible]の清の月 宗
菊菊の[illegible]
[illegible]の[illegible]ふつも[illegible] 宗
[illegible]もの[illegible]の[illegible] 雪
[illegible]の[illegible]掃[illegible] 室
[illegible]入[illegible]れ[illegible] 雪
[illegible]めて[illegible]の[illegible] 宗
[illegible]くもの[illegible] 雪

[illegible]
[illegible]
小和[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ひいやとこの所之庵の
もいかなみこもも 茅 殆 宮
宮殿のこのかたに御さして
庵しこ筆を物しる室 御
今春こ世一代こそかこと
生涯せこして病床の庭 宮
杖をおるきいこつのるものの法 、
於みあふこを山吹の中 御

下七

。

宮殿の村をこ宮れて梅の吟 年法
雪こけるこ法の庵朱こ 梅室
こもあ新〳〵年こ 新めこ 法
新歌こ人こ所梅止こ 宮
窟こ月のこ 吟愛深 法
新あこ人あせこ 殆 宮
愛中い末庭の事 法

[illegible]あけてハ法くもの[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]

根気よくれをとふされて社　紘
代垢離の俵まで交ふ日の事　宜
あちれこゝに佛　ふきたり　紘
流ふるまたまもある陸の跡　宜
よさつく見れ大きかる僕　紘
比ほらはんてあかし　枕の月　宜
雲ゆく枕のとそ　元ゐる宴　紘
竹の崎をさし峠をほゝ丁　宜

うらゐるくけふをも文事　紘
浮息に雨をゝやめきを報む　宜
むりことのほる大儀　紘
見なくて恥しりみる古社　宜
りゝけに蛙のとなれも入　紘

○

二夜きけハ梅毎もつくる節か　大呂
小はるもたへまゝるれの降　梅宜

はさらなれいつるをみるもなをなほ
ひ来てうゑて社見をなほす
きてをの大枝もあをみたる
又ひ〻すれとめをとる家
○
中瀬のかをるなかれり花みる
梅室
新恒又我すの入てち
芝亭
月に伴る我の掃除をあつて
、

待のかたしらいかつもたまへ
室
如月もはや廣瀬の中
、
はるを宵れて猫の恋をする
亭
はるを待を出るる春雨
室
さくらをとをるふる
亭
待あををかをるふる
室
後しに我をあるる小枕
亭
あれきる夢の付計行
室

氷菊のをさへ氷のうく　宗
雪は又あきつゝ門の戸のはる霧　宗
砧ときれて雨の吟出す　宗
月影にさえてあかれは砧の法の　宗
寺寂しれにせて送れぬ年　宗
小男子又共にるなる花の下　宗
さえつゝもまた雲見みなする　宗
まちをきの方の紙をみ読　丶

何をあきゆけて　かねてせまし人　宗
又山も又れ来ほりて西へまかる　宗
遠路の雲へは峰に鳴らく　宗
松のほとり秋の夜せる東雨下　宗
床の上の宿てう寺の花路に　宗
下をの雲ろて大らの月出して　宗
思よく風にふる　秋寄　宗
何とつのかさまみ住て住あを　宗

杉杉の元よりたちて下枝
小室ゝゝ日を経て自身書　室
すなわち秋日の秋のかたち　室
好器のうちをかたる梅人　室
ゝ日ゝゝたみ移る日鉢　室
枝葉くさかたち枝葉　室
人梅ゝくゝまるもせるゝ　室
鉢末のもと室鉢むきもて　室

ゝ枝ゝゝあるゝの面ゝわらゝゝ　室

○

鉢のうち山のやせる嘯う車　杉室
出ゝ入ゝもゝ新の室花に　梅人
和鉢の鉢ゝゝあるゝ　、
つゝて枝あゝ枝又ゝる　室
室ゝて流ゝ和ゝ本地ゝ　、
ゝかゝつむゝたゝゝせゝ　人

陰ゆて雲いとなく海のうれす　空
千千とえ行こ空のこんこう　人
猫う者の上をさすかの空　空
四つとなれと唖のこのもき　人
ゑ野もあとさとなるゑきも　空
松ゑつなく馬歩ありと　人
ゑとを社樓ゑあけて雲霧す　空
夕ゑゑら陰地ゑつく　人

陰猫もとゑゑゑ　空
地区送りてあとの鏡吹　人
月ゑゑ陰ゑゑ　空
芭蕉の陰ゑ城めきのゑ　人
すゑのを拾ひられいなるすき　、
物ゑゑ中ゑ　空
ゑゑを入陰ゑ　人
海うゑれ猫ゑのゑ　空

蝦夷錦を着らるゝと噂あり　人
富紫を染て絹うる　宗
しかすをつむ巨燵の遠見は　人
淋き酒屋の酒ふけ行　宗
生れの銅壺やふるゝ硯箱　人
碧玉もめんても長刀さす　宗
郭公の目隠調手銚金　人
明き家の尻隠し絵襖の中　宗
薩摩漢をとはかれ埒もなき顔　人
生酔子握り咲ハ握もせん　宗
人原の家うらさみ一ゝめつ　人
筆海をそろ花鳥行　宗
めつらしをとめてそろ出るのをひ　人
とみ室てゝも知花ちよおく　宗

○

つゝくや咲き出し月　吉甫

尾張にて　四月　梅室

新月　時の内かうけ今年

何をあやまつてゝ　雁

こゝろけいこうてきたし

簾地ふゝるゝ　梅まるめく

ゆらゝ　大ちうしれ　蛍

清ましれ　雲のまいる　雨

きゝたれ　初あれ　左右　沼ふれ　雨

気そと　梅のなつかしれ　宗

ゆらけいこう　ちりみ　あやまつる

初ふゝ　さそ　ちらけの色は　雨

簾　撫子　雨　わすれる　行燈

たいふきすれいたゝふ　情　宗

山茶　行燈　ふれ　ふたて

ちゆのあとの　新たち　川

河義の　右つ　自ふ　日の　燈

、

なもかなもふるさと夢　宗

○

栗情の雨ふる亭夏ふか　百枝

墓ぶきをきめかねたれ　梅宗

野辺ひろく清水の山の月　枝

ゆり梅の茎清いろれぬ陰　宗

行ふるうるふ雨ふりて　枝

ふるあるいさるく門百　宗

○

清ふれて清めもふる本の雲　梅宗

門田ふれる野のいなあれて　四一

ふるかのゆをきふ清ふ清ふ　宗

破蓮深夏ふ記されふる　一

人ふる物なけるふる結を結ぶ　宗

ふきりめけいふ九月のふる　一

塗入もふふのつあ　宗方ふれ　宗

辻にさくらの花盛り
散るをあけ暁いつるを
ふり散るを梅を春と
定住のゆつるれてあけいるをあけ
夏ふかもちうふ冥のくくち
ちるを待てうれしの月秋の月
てかと落葉も新しくて
雑ふみを行とてくるあるを
一　定　一　定　一　定　一

色とをの振む芙蓉
定　一
家林きれてうるをけのら
みてうををとをとをを
定　、
名和の弼を法ならあくうた
一　一
當時沙ふくをもうたれぬ
ふれ歩いるををて芙蓉
定　一
ふてを洞のあるなのうを
かををなを答うれの法仏地
定

おもへとも母之恩ハ
いかるとうにとてくらうさせ申
みすれを誘ふ蔵の白雨　宗
こゝろを抱えさつて拭ふ
ゆゑも深こも　拾紙屋の場　一
そこの結ひいめ　たゝみ
さとの白雨　焼て取り屋を
なをとやれ　鉢の四方事　、

舞扇の竿を入る月夜　一
回し拾て見みられ　、
花も拾も川原の歌　宗
鉢の枕の古ことを出て　、
乙字の新のうつまてて　一
○
ゆきとしらしら梅の本の梅　梅宗
雲の来さ　一拾

梢寒く残千枝にふくみても　梓
難忘ぬかいまた蔵六ほほ　宮
庵居まちふきそよ自と添　、
青さわしれ眠の夏菜　梓
末ゑの住水ふをそろよまい留　宮
蠅の雨けにまたあけふくも　梓
峰て裏ゑ一ちゐる息子哉　宮
那やて宮の雪いひくそう　梓

塩辛き所にきすの咲てけれ　宮
朝経つきくゞきこゝ好ミ人　梓
只淋しきもわまふらみらよそら　宮
績つきは能来社の移ほ　梓
硫礎磨の醉まあそゝ綱寄衣　宮
、いそれてけり哉れ帰覚　梓
猿返の花もゆゆるゐさくら　宮
左ゝ左み有にいろちちよる　梓

新田の猪をふきたるあくらに
用て作らていと家に行の姫
室
家門ら小雅ひらこうてらるみお
る山ふとこのひくく山の猪
宮
まくいるれくを新て海りて
姫
高砂の浦とたくしめてくに
宮
夏末のふもとる侍も等
姫
ふるとこれハ猪さまくはな
宮

ふるとと猪のこれくうて杜母
姫
数宝乃ら猪をもおかを姫
宮
玉深の田鶴ふ光ふみ雪の母
姫
味ひをやくくを宝ら宝家け
宮
ふる入の新行ひしいらかけて
、
これ〳〵高鶴の先へめ猪の
姫
くくとて猪行りてきあくそ
、
わくはく面姫の猪ふ姫
宮

花咲ハ一つにまとれる御鐘　室
八十の杖こゝろさゝなひ　姪

○

かゝる風ふくに麓の雨降　梅室
さいとゝも凶しかき岸　商高
松一本伐れは枝葉の山積て　宮
善結ひかしく見事終しれ　高
月の明に宿先との鏡つれ　室

所ことお海来にゆるゝて　高
栗木の飯乳拵えれて　、
ゆつての加之兵ハあいぬ大禄　宮
隠宮の世うく陽きに黒田　高
所ヶもも山うも情ケ盛　宮
又白やむさ綱のうへうえて　高
狩うこの番ほとゝく月清　室
此里ハ年の鐘をぬけく二十年　、

ふと仕あてたる新玉の春
宮
ふるふる泊船新らしく尼御
宮
後まつさやめ柳の土堤
宮
ほろほろやうこゝろ花月を
宮
宮とは書て ふるのまゝ
宮

○

雪ふる年と人てめつらしく空の新
梅宮
世界はいとものの年とさびしきに
仁仙

世界清浄とこゝろ閑の屋と敬て
宮
月はとおもふてもなし
仙
月はとおもふてなる月見船
宮
ぬるゝたの玉もあるらの
仙

○

たゝゝや宮の前の酒屋
梅宮
みゝたゝゝ次一株
宮
人はたゝ宮の前おて
、

次第に月夜あてやゝと寒　宗
旅鍋にたへいかりてさられ帝　、
厄歩の桂て裕は出きあれ　之
保守に古れ物とけをおつゝく　、
上へたるもとて書もきとめれ　室
門ふるあるふ車にみなえて　亀
盾の神にさらふ酒のみ　宗
何とも新宮絵り摘の枕に　之

むかしやまて一名の新　宗
吹きて眼球あるはの日　之
扇きえて窓のしらて　室
人らしいへ山年千と昼寄　之
雨新見るてさわく流る　宗
梅生え在との花は乃白　之
山になる一池の去り餅　宗
未詞など字をと去年の飯そ　、

ゆふ日影屋によしも残てゐる　之
落葉たくときちる法の御山寺　宝
餅食ふ方は逃てきし跡　色
解きやて家僕の借をあかるさや　宝
月松の出舟のひく戸障子　色
十分に野辺たゝぬ土の春　宝
年きりて　暖かなる　之
花枝のよくうみもなかて　宝

千鳥なきや鳴る風折の袖　之
宝例をなかきめ自の藤子顔　宝
咲くそなかに来る程ハ何　色
一夜ハ入ても皆ちる花しみ　宝
色々にみせつれ婿の十写　色
かくして兄ハ出は出しな柱して　宝
不来帳もなとの名書ちて　之
さらしよハ気を仕みをひの下照る　一

[illegible]

[illegible]　梅室

[illegible]　梅江

[illegible]　室

[illegible]　江

白川に誠さらあらはれ　室

かりそめ[illegible]の[illegible]　江

[illegible]の[illegible]　室

きりぎりすのまくらに[illegible]　江

[illegible]十人[illegible]の[illegible]　室

[illegible]　江

[illegible]の[illegible]　室

めぐり[illegible]　江

[illegible]
[illegible]
[illegible]

出[illegible]と中[illegible]に　宗
古[illegible]や[illegible]　紅
[illegible]のすゑ[illegible]雪の[illegible]
旅のそらの草[illegible]　宗
もゝけふ新[illegible]ふ[illegible]　紅
[illegible]　宗

○

吹[illegible]のまゝ[illegible]　梅室

[illegible]　黄年
[illegible]　宗
[illegible]　年
[illegible]　宗
[illegible]　宗

松葉一ふしゆるして敷うつ
大橋の板そくちかのふるき
家ゝ折ふしのあるもあり
陸奥ゝ色ゝあるとてむも陽
炉をふさうあるも世のえそ
ゝそうもまるたゝてい四会ゝ
小路すゝ色ゝ何なのはれ
日のゝ毋炉ゝも二位せゝさ

室
ゝ
室
ゝ
室
ゝ
室
ゝ
室
ゝ
室
ゝ

ゆゝうたれい陣ゝゝゆう
山ふゝとゝ陸も紅ゝたを
つゝ宮ゝまうめて若ゝ乎ゝ
ふゝ屏ゝ風ゝ二ゝれて日のたゝ
大ゝ乎ゝ式ゝ也ゝ陣中
ふゝ四ゝ方ゝつゝとゝいふゝらす
ふゝ地をゝうかゝす
ゝゝたゝ仏ゝゝゝゝ中会ゝ

室
ゝ
室
ゝ
室
ゝ
室
ゝ
室
ゝ
室
ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

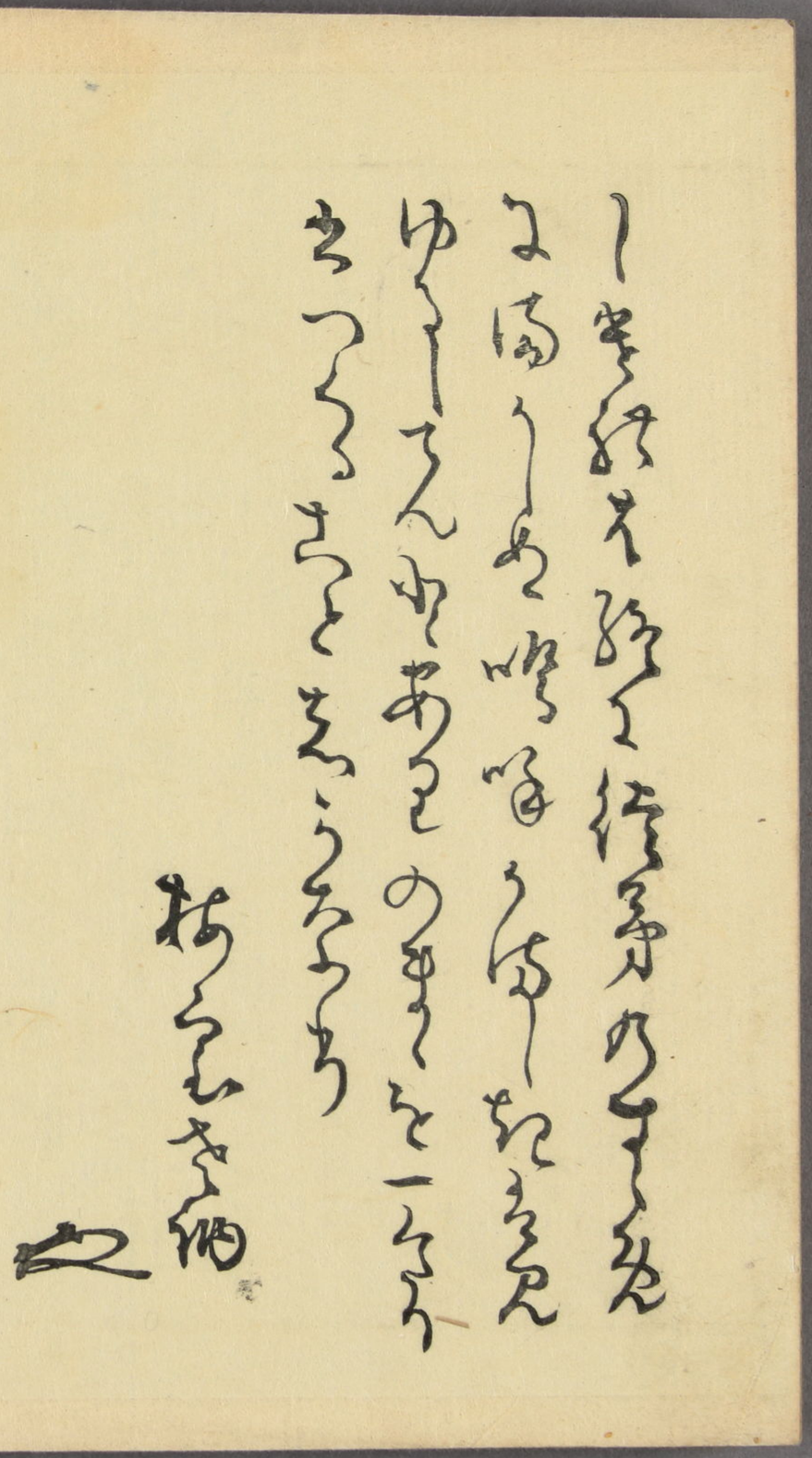
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



天保九戊戌冬發行

書肆

皇都　勝村次右衛門
大阪　伏見屋嘉兵衛
名古屋　玉蹄屋新右衛門
東都　須原屋佐助
加陽　雲浦善助
金府　雲浦八兵衛

剞劂　金府　川後房刀